

令和5年11月30日
(2023年)

保護者のみなさま

吹田市立高野台小学校
校長 村上 弘明

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

- *平均正答率は全国値を上回っている。
- *選択式の問題の正答率は全国値を上回っている。
- *短答式の問題の正答率は全国値を大きく上回っている。
- *記述式の問題の正答率は全国値を上回っている。ただし、他の形式の問題と比べ正答率は大きく下がるが、無回答率は少ない。
- *ほぼすべての問題で無回答率が全国・大阪府に比べ少ない。
- *「国語の勉強は好きですか」の肯定的回答は、全国値を大きく上回っている。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと

- *「目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる」は、全国値を大きく上回っている。

書くこと

- *「図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」は、全国値をやや上回っているが、正答率は低い。

読むこと

- *「目的に応じて、文章と図形を結びつけるなどして必要な情報を見つけることができる」は、全国値を大きく上回っている。

言語の特徴と使い方に関する事項

- *「文章の種類とその特徴について理解している」は、全国値を大きく上回っている。
- *「よく使われる敬語を理解している」は、全国値を大きく下回っている。

情報の扱い方に関する事項

- *「原因と結果など情報と情報との関係について理解している」は、全国値を大きく上回っている。
- *「情報と情報との関係づけの仕方、語句と語句との関係の表し方を理解し使う」は、全国値を大きく下回っている。選択式の問題であり、図や絵を見て何となく回答していると考えられる。

《国語科における成果や今後の改善点について》

- ◇コロナ禍における十分にできない状況でも、工夫してペア学習や小グループ学習を取り入れてきた。成果として、自分の考えを伝えようとする姿勢、態度が身につけてきている。
- 国語科に留まらず、情報を相手に分かりやすく伝えるために、図表やグラフを用いて効果的に書く機会を増やすことや、意図や目的に応じて適切な記述の仕方を考えることを習慣付けていく。
- 叙述をもとに、物語の様子や場面、行動や心情などに着目して読み進めることにより、物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりできるように読む学習を進める。
- 調べ学習に際して、目的に応じて必要な事柄や情報を収集・選択し、自分の考えを伝えるために、書き表し方を工夫することを意識付けていく。
- 話し合い活動において、話し手の意図を捉えたり、自分の意見と比較しながら聞く姿勢や自分の考えを整理して伝える力を育む。
- 漢字の意味や正しい使い方、敬語など語彙力を高める。

●算数《概要》

- *平均正答率は全国値を上回っている。
- *選択式、短答式、記述式の問題とも、正答率は全国値を上回っている。
- *なかでも記述式の問題の正答率は、全国値を大きく上回っている。
- *「算数の勉強は好きですか」の肯定的回答は、全国値を大きく上回っている。

《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算

- *「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりする」「示された生活場面を解釈し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する」は全国値を大きく上回っている。
- *「筆算について、各段階の商の意味を考えることができる」は全国値を上回る。

図形

- *「正三角形の意味や性質について理解している」は、全国値を大きく上回っているが、すべての問題の中で最も正答率が低かった。
- *「高さの等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」の記述式問題は、正答率が全国値を20%以上上回っている。また、無回答率も低い。しかし、正答率としては45%と低い。

変化と関係

- *「二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求める」「二つの数量関係が、比例の関係でないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いる」は、全国値を下回っている。

データの活用

- *「示された棒グラフと、棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できる」は、全国値を大きく上回っている。
- *「二次元の表から、条件に合う数を読み取る」は、全国値をやや下回っている。

《算数科における成果と今後の指導改善点》

- ◇弾力運用による少人数学級編成や学年内での習熟度別学習など学習形態の工夫による成果が表れていると考えられる。特に、基礎的な計算については、授業開始後の「頭の体操」プリント、はなまるタイムなどの取り組みの積み上げの成果であると考えられる。
- 基礎基本の力の更なる定着を図りつつ、計算の習熟に力を入れるだけでなく、図や表、数式、言葉などの決められた条件を解釈し、求め方や理由を文に表す機会を増やす。
- 具体物を操作する活動を取り入れることで、図形の性質や構成要素に着目し、図形についての見方や感覚を豊かにする。
- 身近な生活に即した問題の提示や資料を活用し、収集した資料の特徴や傾向を関連付けて、思考・判断できるような学習を取り入れる。
- 日常の具体的な場面に対応させながら、伴って変わる二つの数量の関係について、変化の特徴を読み取り、図や式や言葉を用いて関係を表すことができるようにする。
- 問題解決型学習において、適切な数や式・言葉を用い、筋道を立て根拠を明らかにし、自分の考えを記述したり、説明したりする活動を増やしていく。

2 児童質問紙の結果《生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向》

〔自分自身のこと〕

- * 「自分には、よいところがあると思う」（自己肯定感）について、肯定的な回答の割合は、85%を超え、全国値をやや上回っている。
- * 「将来の夢や目標を持っている」について、肯定的な回答の割合は88%で、全国値を上回っている。
- * 「人の役に立つ人間になりたいと思う」「人が困っているときは、進んで助ける」について、どちらも肯定的な回答の割合は95%を超え、全国値を上回っている。
- * 「学校に行くのは楽しいと思う」について、肯定的な回答の割合は97%で、全国値を大きく上回っている。他の質問も含め、学校生活全般に関して肯定的な捉え方の児童が多い。
- * 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」について、肯定的な回答が100%である。
- * 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」について、肯定的な回答の割合は88%で、全国値を大きく上回っている。
- * 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」について、肯定的な回答の割合は57%で、全国値を大きく下回っており、留意しておきたい。
- * 「友達関係に満足している」「普段の生活で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」について、どちらも肯定的な回答の割合は9割を超え、全国値をやや上回っている。

〔家庭生活〕

- * 「朝食を毎日食べていますか」について、肯定的な回答の割合は全国値を下回っている。
- * 「家で計画を立てて勉強をしていますか」について、肯定的な回答の割合は75%以上で、全国値を上回っている。
- * 「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強（学習塾などを含む）をしますか」について、月曜日から金曜日では「1時間以上」という回答が70%を超え、全国値を大きく上回っている。同様に、土曜日や日曜日など学校が休みの日では、「1時間以上」という回答は70%を超えており、全国値をさらに大きく上回っている。
- * 「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか」について、「教わっていない」との回答は40%未満であった。
- * 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」について、「使用はするが1時間より少ない」との回答が69%で最も多かった。メディアバランスへの意識がうかがえる。
- * 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間読書をしますか」について、「30分以上」という回答が47%を超え、全国値を大きく上回っている。また、「全くしない」との回答は0である。
- * 「読書は好きですか」について、肯定的な回答の割合は75%以上で、全国値を上回る。
- * 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について、肯定的な回答の割合は47%で全国値を大きく下回る。コロナ禍の影響がみられる。
- * 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」について、肯定的な回答の割合は8割を超え、全国値を上回っている。
- * 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい」「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい」について、肯定的な回答の割合が、前者は85%以上、後者は90%以上で、どちらも全国値を大きく上回っている。

〔教科・学習について〕

- * 「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」について、肯定的回答の割合が95%を超え非常に高い。
- * 5年生までに受けた授業で、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」について、肯定的な回答の割合は9割を超え、全国値を大きく上回っている。

- *「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」について、肯定的な回答の割合はどちらも90%前後で、全国値を大きく上回っている。
- *「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」について、肯定的な回答の割合は88%で、全国値を大きく上回っている。
- *「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」について、肯定的な回答の割合は95%を超え、全国値を大きく上回る。
- *国語の授業で「立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている」「書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている」について、どちらも肯定的な回答の割合が全国値を大きく上回っている。他者の意見を聞き、自分の考えを深めることによさを見つけていると言える。
- *国語・算数・英語、それぞれについて、「勉強が好きだ」という回答の割合は、どれも全国値を大きく上回っている。また、国語・英語について、「勉強は大切だと思う」との回答の割合は100%であった。さらに、国語では、「物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している」についても、肯定的な回答の割合が100%であった。学習についての価値を認識し、ていねいに取り組んでいることが表れている。

3 課題及び今後の取り組み

- ◇教科に関する結果を踏まえ、授業のねらいを明確にし、振り返りの時間を設けることや資料を活用した学習、自分の意見をまとめ表現するなど児童の体験的な活動を増やし、児童が見方・考え方を育み学習の主体となる授業の工夫や、学ぶ意欲を高める授業づくりを進めていきます。
- ◇これまで本校で取り組んできたはなまるタイム、頭の体操、読書タイムを継続するとともに、習熟度別学習等、個に応じた指導の充実を図り、その効果を高め、基礎的な学力向上に努めていきます。
- ◇児童の「自尊感情」は、概ね高い傾向にありますが、否定的な児童もいます。「自己肯定感（自尊感情）」は、何かをやるという意欲の源であり、まわりの人を受け入れて良好な人間関係を築くために必要なものです。今後も引き続き、子ども主体の学習、子ども主体の活動を仕組んでいく必要性を感じています。自分の力を信じて失敗を恐れずに取り組み、やり遂げることを通して自信をつけるという経験や、自分自身の価値を他人と比較するのではなく、自分自身を認め、まわりの人からも認められるという経験を、一人ひとりが持てるよう、成功体験や達成感を味わえるように、ご家庭と協力して取り組んでいきたいと考えます。
- ◇学級の友だちとの話し合い活動によって、自分の考えを深めたり広げたりすることができています。今後はさらに、自分とは異なる意見に対して考え議論する機会を積極的に設けることにより、ちがいを豊かさにする学校風土・学級風土づくりに取り組んでいきます。
- ◇本校を含め市内各校でもICT機器の積極的な利活用が進んできています。児童が身につけるべき資質・能力を育むための効果的なICT活用の在り方を考えながら、積極的に活用を進めるとともに、児童が必要に応じて端末を活用できる環境を整えるよう努めていきます。
- ◇規則正しい生活習慣、宿題、家庭での計画的な学習や読書習慣の定着など、児童の自立と幅広い学習の機会をつくる指導を進めるために、引き続き各家庭での働きかけやご協力をお願いいたします。
- ◇吹田市では、デジタル・シティズンシップ教育に取り組んでおり、児童が自分自身の生活を見つめ直し、インターネット、テレビ、ゲーム、本、新聞、雑誌などのメディアを自分にとってバランスよく利用することについて考える機会を設けています。家庭でも、携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、話す機会を持ち、児童自身が主体的に考え、行動できるように、ご支援をお願いいたします。

今後とも、本校教育活動に対し、保護者のみなさまのご理解、ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。